

議題1 第1回懇談会での意見について

- ・ 今回の整理で、この懇談会で議論すべき範囲、対象が明確になったので、その方向で議論を進めれば良いと思う。
- ・ 新しい軸を作って、そして賑わいを生みたいということがよく分かった。
- ・ 誰が運行云々というより、「こういう従来の市バスとは違う新しい形で軸をきちんと明確にするバスを走らせる」という内容をしっかりと打ち出した方が良い。

議題2 SRTの魅力をも高める付加価値について

- ・ 例として示しているものが全て実現可能というわけではなく、できるかどうかは今後の協議になってくる。
- ・ SRTが走る路線を明確にするなどのアイデンティティが大事（名駅から乗降空間がすぐわかる、路面の表示を変える、自転車の矢羽根のようにSRTが通る路線だとわかるようにする、ガードレールの色を変えるなど）。
- ・ SRTを軸にするためにはフィーダーが必要。電動キックボードやシェアサイクルがそれを担うことになるため、バス停をモビリティハブにする必要がある。
- ・ キックボードや自転車はシェアサイクルだけでなく、自分の愛車をSRTの車内に持ち込めるようになればよい。
- ・ Googleマップで検索した際にSRTが出てくるようにしなくてはいけない。そのためには他の交通手段との差別化が必要であり、それは、「車内での移動の良い体験」と考える（AR・VR、予約席、バスの中でのコミュニケーション、まちの情報発信など）。
- ・ 名古屋の都心で、SRTが巡るところを一つのテーマパークと位置づけて、SRTはテーマパークの中を移動するアトラクションと考えることができる。
- ・ 「最先端」がキーワード。Riding Labという考え方で様々な新しいシステムやソフトをSRTで実験的に取り入れて、それを実装できるかをチェックする。これ自体が乗り物としての楽しさ、コンテンツとなる。
- ・ SRTはスマートな乗り物なので、利用者データが取れるようにして欲しい（乗降の人数の自動カウント、OD、時々刻々とSRTの利用状況がわかるなど）。
- ・ バスで不安なのは降りる場所がわからないこと。充実した地図、デジタルサイネージ等で、どこで降りるとどんなところに行けるといった情報が出せると安心できる。

- ・高齢者にとってハードルの高いデジタル化も、S R Tそのものに魅力があれば、それを乗り越えるだけのエネルギーを持ってくれる。
- ・10カード（全国相互利用ICカード）が使えるれば、クレジットカードはそこまで必要かとも思うが、海外での導入は早かった。暗証番号を打つ必要のないタッチ決済ならば良い。
- ・歩行環境整備が重要になってくるため、名古屋駅から栄は、歩いても非常に豊かな空間になるのが理想である。そういった点にS R Tもうまくつなげていければ良いと思う。
- ・付加価値の押し付けと本来必要なニーズとのバランスを踏まえた上でコンテンツ、付加価値を考えて行って欲しい。

議題3 デザインコンセプト（案）について

- ・ボディを金にすれば名古屋らしさになるかという問題ではなく、名古屋の文化性のようなものを感じてもらえるようにしてもらいたい。
- ・デザインコンセプトで外のデザイン話をする前に、中をどうするか（バスだけちょっと良い体験、バスだけ移動手段が第一目的ではなく乗ることによって面白い何かが体験できる、名古屋の知らなかった新しい一面を知るなど）を決めれば、おのずと外は決まってくる。
- ・外から見ると人にとってのバスの外観だけではなく、中にもいる人にとっても外がよく見えるのも良いし、例えばジャズライブをバスの中でやっていて、それを中の人がとても楽しそうに見ているというのも一つの風景になる。
- ・デザインコンセプトを車内でやっていることに合わせて変えられると良い。付加価値に関する議論で出た実験的な取組みに合わせて外の見え方も連動させて、期間限定などにした方が、行きたいと思った人はその期間に行こうという行動に移すと思う。
- ・インスタやTikTokを使って若い人たちはどんどん発信するので、そこに取り上げてもらいやすいような乗り物のデザインやコンテンツがあると良い。そこでうまく発信してもらおうと一気に広がると思う。
- ・歴史、文化というのは名古屋の様々なところにある。未来への継承ではなく、未来を先導した方が良いと思う。
- ・S R Tとは、スマート・ロードウェイ・トランジット。スマートなので、なぜここで伝統文化、文化歴史なのかなという気がする。
- ・未来のシステムであるということは言った方が良い。都心風景というワードもとても良いと思うので、そのような点がデザインのコンセプトになっていくと思う。
- ・コンセプトは、歴史文化の未来への継承よりは、「都心、風景、未来を先導」という方が良いと思う。

- ・新しい乗り物という意味では、「わくわく感」がとても重要なキーワードだと思う。そのわくわく感がどちらの案で生まれるかと言ったら、歴史文化の継承より、都心風景の未来の先導だと思う。
- ・新しい乗り物がまちの風景の中の一つのエレメントとして、このバスが走っていることで名古屋のまちが魅力的になるんだという捉え方をしたい。
- ・名古屋には基幹バス、ガイドウェイバス、リニモなど新しい移動手段の一つのモデル都市になっている。SRTも名古屋らしさそのものであると考える。このバスが走ることが名古屋だという一要素になり得るのでうまくデザインに反映してもらいたい。
- ・まちのデザインと今回新しく作るデザインというのは当然関連性がなくてはいけないが、まちに溶け込むのはやめた方が良いと思っている。溶け込むのではなくて調和して欲しいと思う。